

市の木 梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。
南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。



市の花 花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月7日市制施行10周年を記念し制定。
豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。



市の鳥 しらさぎ

平成19年（2007年）11月7日市制施行35周年を記念し制定。
『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、生き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

城陽市歌

明るくのびのびと

作詞 龍村 孟雄
作曲 中原 都男

1. うめかおーる やまべにのべに ちやの
みどりほのか にもゆーる もろひとのここ
ろーのすみか うつくしきわれらのまち
よ ひかりあれ ひかりあれ ひかり あ
れ じょうよう うつくしまち

2. 松あおき 鴻の巣山に
鳥啼きて 明るき陽ざし
こだまする 榎のひびきに
ひらけゆく われらのまちよ
栄あれ 栄あれ 栄あれ
城陽 ひらけゆくまち

3. 砂しろき 木津の流れに
黄金なす 稲穂のみのり
山の幸 野の幸さわに
ゆたかなる われらのまちよ
恵あれ 恵あれ 恵あれ
城陽 ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）2月15日制定
（昭和47年（1972年）5月3日市制施行に伴い、
町歌を市歌とした）



城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行4周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）4月26日制定

〔昭和47年（1972年）5月3日市制施行に
伴い町章を市章とした。〕

城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい
城陽の未来を創造するために
わたくしたち城陽市民は

- 一、自然を生かし 美しい緑を育てましょう
- 一、教養を深め 豊かな文化をつくりましょう
- 一、心身を鍛え 働く喜びを大切にしましょう
- 一、隣人を愛し ふれあいの輪を広げましょう
- 一、秩序を守り やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（1982年）11月7日制定
（市制施行10周年を記念し制定）

城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言



城陽市役所庁舎 南玄関前

平成 24 年 7 月 26 日 (木)

城陽市役所集合

出発 (小学生 6 年生 26 名・中学生 6 名 合計 32 名)



昼食

平和記念資料館見学
資料館地下展示場見学



被爆者講話（岡田恵美子氏）



旅館 到着



入浴
夕食等



ミーティング

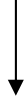


（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

消 灯

平成 24 年 7 月 27 日 (金)

旅館出発



広島平和記念公園到着

原爆死没者慰霊碑



広島二中原爆慰霊碑



原爆の子の像



(みんなで持ち寄った折鶴を捧げました)

原爆ドーム



爆心地



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館



広島風お好み焼き体験（昼食）

広島市出発

城陽市役所帰着

解散



目次

| | | | | |
|------------|--------|----|---------|----|
| 広島派遣団に参加して | 青谷小学校 | 6年 | 東 茉里 | 1 |
| 広島で学んだこと | 青谷小学校 | 6年 | 堀 井 文 哉 | 2 |
| 広島派遣団に参加して | 青谷小学校 | 6年 | 横 山 寛 明 | 3 |
| 広島に行つて | 青谷小学校 | 6年 | 小 林 時 真 | 4 |
| 笑顔があふれる世界へ | 久世小学校 | 6年 | 藤 永 紗由香 | 5 |
| 原爆 | 久世小学校 | 6年 | 千 代 実 紅 | 6 |
| 広島派遣団に参加して | 久世小学校 | 6年 | 藤 田 佳 奈 | 7 |
| 広島派遣団で | 久世小学校 | 6年 | 松 野 莉 子 | 8 |
| 広島での戦争、平和 | 久世小学校 | 6年 | 喜友名 萌 那 | 9 |
| 広島に行つて | 久世小学校 | 6年 | 山 本 知 樹 | 10 |
| 戦争はこわい | 久世小学校 | 6年 | 西 野 優 人 | 11 |
| 広島派遣団に参加して | 久世小学校 | 6年 | 浦 川 周 馬 | 12 |
| 広島派遣団に参加して | 寺田小学校 | 6年 | 小 寺 旭 博 | 14 |
| 広島に行つて | 寺田小学校 | 6年 | 山 口 歩 人 | 15 |
| 広島派遣団になつて | 寺田西小学校 | 6年 | 山 崎 有 澄 | 16 |
| | 寺田西小学校 | 6年 | 橋 本 健 吾 | 17 |

戦争の恐ろしさ

寺田西小学校 6年 小原 諒士 18

広島にて

寺田南小学校 6年 奥田 愛子 19

広島県に行つて学んだ事

富野小学校 6年 田中 萌葉 20

広島で学んだ事

富野小学校 6年 小林 真菜 21

平和を願つて

奈良育英小学校 6年 後宮 尽我 22

広島について

深谷小学校 6年 寺井 鈴音 23

世界中が平和になりますように

深谷小学校 6年 河合 陽菜 24

広島派遣団に参加して

深谷小学校 6年 一瀬 真友子 25

命の大切さ、平和の尊さ、私達の幸せさ

深谷小学校 6年 西野 七海 26

広島派遣団に参加して学んだ事

古川小学校 6年 岡田 高明 27

平和の尊さを教えてくれた広島

北城陽中学校 1年 朝子 陸矢 28

広島に行つて

北城陽中学校 1年 加藤 成希 29

広島へ行つて

西城陽中学校 1年 河田 そら 30

広島派遣団に参加して

西城陽中学校 1年 武田 多恵 31

広島派遣団に参加して

南城陽中学校 1年 長澤 知穂 32

戦争の恐ろしさを知つて

南城陽中学校 1年 平岡 紬 33

広島平和派遣団に参加して



青谷小学校 6年

東 茉 里

私の姉も6年生の時に広島派遣団に参加しました。その資料を見たり、姉の話を聞いているうちに私も行きたいと思うようになりました。人数が多かったら抽選だと聞いていたので、無理かもしれないと半分あきらめていましたが、封筒が届き行けるとわかった時はとてもうれしかったです。そして当日、同じ学校から4名参加できましたが、3名が男の子で、女の子は私1人だったので誰とも話せなかつたらどうしようかと不安でいっぱいでした。でも行動班の女の子が「一緒にまわるう」と明るい声で話しかけてくれて私の不安も一気にふき飛びました。広島的事は本で読んだだけで、あまり知らなくって観光気分です。資料館に行き、想像以上の光景に言葉を失いました。真っ黒なお弁当、焼け焦げてぼろぼろになった学生服、こわれている眼鏡などが展示されていました。眼鏡はさわっただけでポロンととれそうなほどでした。「水をくれ」と道をさまよい歩いている人、ふらふらになって歩いている人の写真や人形。まるで声が聞こえてきそうで頭が痛くなつてしまいました。

資料館で、被爆された人の話を聞きました。1枚の紙で戦争に行かなければならず死んでいくことにもなったそうです。そして8月6日雲ひとつない青空、7時に空襲警報が解

除されました。飛行機が飛んできても日本の飛行機だと思つて手をふつていたそうです。「ピカ」その瞬間吹き飛ばされて周りには何も服を着てないで男か女かわからないほどやけどされた人がいっぱいいたそうです。「水を下さい」といながら歩いている人、横たわっている人、空は赤く夕焼けのようでした。子供達は疎開といつて親から離れてお寺に預けられました。家族が面会にきてくれるのが唯一の楽しみでした。でも少しの人しか親元に帰れなかったそうです。戦争が終わった後、働こうと思つても、戦争で勉強してないので漢字もわからず計算もできない、何も知識がなく原爆で放射能がふつたことも知らなかったそうです。知識がないということが一番辛かったそうです。お話の中でこれだけは絶対守つてくたさいと言われた事があります。1. 人を傷つけない 2. 毎日を大切にするといい事です。私達は学校も行ける、家族と食事もできる、じゃぐちをひねれば水も出る、笑ったり、泣いたりできる、そんな当たり前の事を当たり前と思わずだいたいしないといけないと思えました。その頃の方はそんな当たり前の事すらできなかつたのですから。そしてこの広島で学んだ事、感じた事を、家族や周りの人に伝えて、2度とこんな悲しい事がおきないようにしていかないと強くなりました。2日間たくさんのお友達もできました。本当に行つてよかったです。

広島で学んだこと



青谷小学校 6年

堀井文哉

今日は、8月6日。広島平和記念日。朝からテレビでは平和記念公園がうつっています。

ぼくは先日広島に行つて67年前の今日、世界で初めて原爆が投下されたことについて学んできました。特に心に残ったのは被爆体験者のお話でした。前の日は飛行機が飛んでいる音でねむれなかったこと、台風より強い風がふき、4000度以上にも温度がたつたこと、放射線がばらまかれたのを知らずに広島街に帰ってきたこと、その後もずっと病気や、やけどで苦しんでいる人たち。どの話も今のぼくには想像もできないお話でした。

この話をたくさんの人達に知ってほしい、伝えていかなければならないと思いました。

原爆のことをもっと知るには資料館で実さいに見ることで。一番印象に残ったのは、黒こげになった三輪車や、弁当箱です。

ボロボロになった学生服やいっしゅんで消えてしまった人、焼けてしまった町の写真、信じられない光景が目につきました。

次は資料館の地下展示場に行きました。そこには、血のしみついた服、ひどい絵、そんなものを見てみると今の日本が

どれだけ平和なものかがとてもよくわかります。あのころの人達が今の広島を見てどう思うかなあーと考えました。こんなきれいな街になった広島をたくさんの人におとずれてほしいと思います。そして戦争がどれだけ悲さんでおそろしいものかも知ってほしいです。

次の日は「原爆の子の像」の前に千羽鶴をささげました。ぼくたちと同じ12才で亡くなったさだ子さんはどんな思いで鶴を折っていたのかなあと考えました。ぼく達は毎日元気で遊んでいます。これも平和な世の中に生まれたからだと思えました。いつまでもこんな世の中が続いてほしいです。戦争がおわつて67年、一生戦争はやつてはいけないとぼくは思いました。もし今、核戦争がおこり広島何十倍何百倍の核兵器が落とされたら世界は滅びてしまいます。唯一の被爆国としてできることは戦争のおそろしさを世界中に伝えていくことです。



広島派遣団に参加して



青谷小学校 6年

横山 寛明

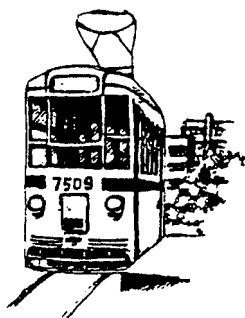
広島派遣団への参加が決まって、ぼくは、広島に行くのを、とても楽しみにしていました。なぜかというところ、テレビなどで見ていた原爆ドームなどを見に行ったり、広島風のおこのみ焼きを、焼けたりするからです。原爆のことは、たった一つの爆弾なのに、広島市の家々がいつしゅんのうちにしてつぶされて大量の放射線を出していたことや、東京の空襲などで、使われる爆弾の何万個以上のい力があることなどは、広島に行く前に知っていました。しかし、実際に広島に行って平和資料館や、原爆ドームを見て、たった二日間だったけれどもすごくたくさんのが分かりました。

ぼくは、去年、長崎に行った時、資料館で、原爆の模型を見ました。あまり大きな爆弾一つで、一つの大きな市がはいされたのが信じられません。でも、今年広島平和資料館に行って、いろいろな物を見て本当にはかいされたのが分かりました。平和資料館に入って目に入ったのが、「生死をさまよう」という展示でした。広島に原爆が落とされた直後のはだがやけただれていて、きているものがポロポロになって、顔を見てもだれなのか、分からないぐらいの顔の人が、広島町の町をさまよっているもけいでした。背景には、燃えている家々がかかれています、とてもひさんでした。

そのほかに、やけこげた三輪車や、中身も黒くなってでこぼこしている形だけの弁当箱がありました。

爆心地の写真は、原爆が投下された後、門だけがのこっているだけで、ほかは、そこになにがあつたか分からないように、山のふもとから、ずっと、遠くを見わたせるくらい、建物がつぶれている写真でした。そこは、はだしなどでは、とても歩いていけるところではありませんでした。これが現実にあつたのだと思うと、こわくなってきました。

ぼくは、この広島派遣団として広島に行き、資料館などを見て、原爆のおそろしさや、戦争というのは、とてもざんこくだということが分かりました。そして、被爆者の方の話を聞いて、平和の大切さ、命の尊さもよく分かりました。そして、二度と戦争というおそろしいことは、やってはいけないと思いました。ぼくは、被爆者の方の話をもちといるいろいろな人に聞いてもらおうと、平和な世界になると思います。ぼくは、今回分かったことをいろんな人に伝えていきたいです。



広島に行つて



青谷小学校 6年

小林時真

ぼくが、派遣団に応募した理由は、8月6日のあの日、広島がどうなったのかくわしく知りたかったからです。

城陽からバスで約5時間、広島へ着きました。昼食を食べ、平和資料館へ行きました。そこで一番印象に残ったのは、皮ふがたれ下った親子の模型でした。

「水がほしい・痛いよー・助けてー」

などと言う気持ち伝わってきました。

他にも、仲ちゃんの三輪車や、高温でとけたかわらなど、色々な衝撃的な展示物があり、どれも原子爆弾のおそろしさが伝わってくるものでした。

その後、被爆体験者の岡田さんの話を聞きました。岡田さんは、原子爆弾の落とされた日の夜の大火事以来、夕焼けを見るのがいやになったとおっしゃっておられました。今までぼくは夕焼けを見るのがいやな人がいるなんて、考えたこともありませんでした。でも、それほど原子爆弾がこわいものだというのがわかりました。

二日目、広島平和記念公園に行きました。原爆死没者慰霊碑に花をささげ

「安らかに眠って下さい」と祈りました。

その後、禎子の像のところで千羽鶴をささげました。ここで改めて、戦争のおそろしさがわかり、悲しい気持ちになりました。

そして、お昼は「お玉のキャベツ」という店で広島焼きを作りました。

自分でも意外と簡単に作ることが出来ました。

今回、広島派遣団で広島へ行き、貴重な体験が出来て、とても良かったです。

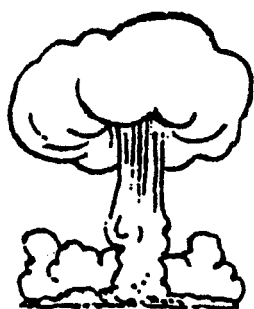
城陽市は、「平和都市宣言」を昭和61年からしている事を知りました。

それは「戦争や核兵器をなくそうという運動」だということとを今回、派遣団をとおしてわかりました。

さらに、平和の大切さ、戦争のこわさを知る事ができて良かったです。

でも、ぼくの住んでいる京都の事はよくわかりません。なので、夏休み中におじいちゃんおばあちゃんなどから、

戦争に関する話を聞き、学ぼうと思いました。戦争反対、核兵器反対の声を大きくして行ってほしいと思います。



笑顔があふれる世界へ



久世小学校 6年

藤 永 紗由香

私が広島につき景色をみると、昔こんな不幸な事が本当にあったのかなと思うくらいとても景色はきれいでした。

初めて行ったのは資料館です。ついて目にしたものはポロポロになった学生服や、皮ふがたれさがった人体もけいでした。それを見て、「自分ってすごいめぐまれているのかなあ」と感じました。学校で戦争について学ぶ授業で、「はだしのゲン」「対馬丸の戦い」を見たことがあります。それを見た時は、「良い時代に生まれて良かった。」と思っていました。でも広島派遣団として、色んな事を学習すると「ふつうに学校に行き、ふつうにごはんを食べている。こんな当たり前な事が、昔はあまりできなかったんだ」と思いました。

2日目、おりづるをささげる時、そこには数えきれないほどたくさんのおりづるが、ささげられていて、私も自分で持ってきたおりづると、他の人の分の思いまでささげてきました。私は、「一生戦争がおこりません様に。ずっと平和な世界でありますように。」と願いました。

そして被爆者の話を聞きました。すると、戦争に対しての気もちがだんだん強まってきました。被爆者の人は「姉がいつてきます。と言ったきり帰ってこない。」とおっしゃっていました。私にも姉がいます。姉がいつてきますと言ったきり

帰って来ないなんて今では考えられません。今は好ききらいをする子も多くなってきました。昔は好ききらいなんてできなかったでしょう。もっと一日一日を大切に生きなければいけないと思いました。過去にこんな悲しい悲しい戦争というものがあって2度とくり返してはいけないという強い気もちをもち続け、これからもたくさんの人に伝えるという活動をしていきたいです。



原 爆



久世小学校 6年

千代 実 紅

私は広島派遣団に入って、たくさんのことを学びました。初めに行った平和資料館では、原爆にあった人の持っていたものや着ていた衣服などが展示されていました。これらが現実にあったものだと思うと、原爆はとんでもない爆だんだんと思えました。67年前そんな爆だんが急に空からふつてきました。一瞬のうちに家や木、草がなくなってしまう、人はみんな黒く周りには死人ばかり。顔が真っ黒で「水、水」とさげぶ人、さっきまでの世界が一瞬の光でなにもかもがなくなってしまうきょうふは考えただけでも、こわくなってきます。

次に資料館地下に行きました。資料館地下には、その時の様子を絵に書いたものが展示されていました。家の下じきになり助けを求めている人、水道に頭をつっこんで死んでいる人、皮ふがたれさがった状態で水を求めている人、当時の絵がたくさん展示されていました。すべての絵が67年前の広島だと思いと信じられませんでした。67年前「広島には草、木がはえない」と言われていましたが、今の広島は草、木がたくさんはえているし、人々も活気にあふれていました。被爆者の話では、当時家族がバラバラになったり、子供だけが生き残ってしまうことも多かったそうです。その後、生き残っ

た子供たちはこじになり、他人の食べ物や物をぬすんだり、うばったりする生活をしていました。でも数年後にはこじたちも働きはじめました。でも、家族がいないさみしさはあったそうです。

この二日間で原爆のおそろしさを実感しました。一瞬で何もかもうばってしまう原爆、もし、原爆のほのおから助かる事ができたとしても、残された放射能で病にかかり、かみの毛が抜けたり、血をはいたり、治らずに死んでいく人が多かった事を知り、ますますこわく思いました。戦争も原爆も二度とおこしてはいけない事と平和の大切さを学んだ二日間でした。



広島派遣団に参加して



久世小学校 6年

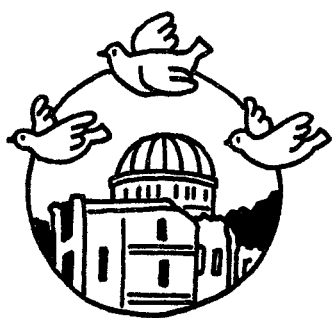
藤田 佳奈

私は友人に誘われこの広島派遣団に参加しました。以前に祖母からは戦争の話を知ることがあります。祖母が8〜9才の時、東京に爆弾が落とされたそうです。祖母は家族と列車に乗って助かったものの、近所の方は「もうなにもない。ここに残る。」と言ったそうです。この話を聞いた時、私の背すじが凍りました。戦争はひどいものだとはよく分かりました。しかし、広島で原爆を投下された話には祖母の話よりもっと恐ろしくこわいもので「恐怖」そのものでした。晴れの天気を破ったのは核兵器でした。8時15分で止まってる時計。この瞬間、広島全てが恐怖に変わった時間でした。世界で初めて投下された爆弾で、それは放射能をまきちらすすごい光と共に、全てを崩し黒焦げに焼いてしまうものだとは知りませんでした。この瞬間だけが恐怖ではなく、この後が恐ろしいことを。黒い雨がふるのは、放射能を含んだもので、これを浴びた人は、髪の毛が抜けたり血を吐いたり、生き残っても、放射能が原因で亡くなった方は大勢いるそうです。

語り部さんの話では周りは一面、亡くなられた方の骨や建物の残骸、血などで周りがみわたせそうです。唯一残された建物の原爆ドームも当時は、今にも崩れて壊れそうだったそうです。それが今では、ビルがたち並び車が行き交い、リ

トルボーイが投下された後の広島と思えないくらい町の町並みでした。そして、昔があるからこそ今があるんだ、と思いました。そして投下された後、苦しんだのは大人だけではなく子供もそうであったことが分かりました。親を失った子供は食べ物を与えられる代わりに働かせられていて、その仕事ですごく残酷だったそうです。皮膚はただれ、目玉が落ち血まみれで、それでも生きている人達の話を知りました。被爆者のみなさんは今でも苦しんでいます。広島だけではなく長崎も核兵器を投下されたことを聞き、私は「戦争はなんの意味があるんだろう？戦争をして何か良くなるわけではない。その国の全員が幸せになるわけでもない。逆に大切なものや家族を失うかもしれない。何で日本は広島にリトルボーイが投下される前にアメリカとの戦争をやめておけばこんなにも大勢の方が亡くならなくてすむのに…。」

と私は疑問に思いました。でも、あれから日本は変わったと思います。長崎や広島に核兵器が投下された後から、日本は戦争が繰り返されないような世界を願います。



広島派遣団で



久世小学校 6年

松野莉子

私は、この広島派遣団になぜ参加しようと思ったかという
と、姉が2年前に参加していたので私も行ってみたいと思っ
たからです。行く前は、原爆ドームなどテレビや写真でしか
見たことがなかったのを見てみたいと思っていました。

平和記念資料館では、8時15分で止まった時計、8時15分
に本当に原爆が落ちたことがよく分かり、実際に時計も展示
されていました。黒こげになった弁当箱、焼けこげた女子学
生の夏服、その他のいろいろな展示がされているのを見てき
ました。その原爆のおそろしさが、とてもよく分かりました。
また、ぼろぼろになった服からは、遠くにおいてもこのように、
たくさんの被害があったのかと思います。爆発後にふった黒
い雨、白カベに残ったあともありました。本当に黒い雨はふっ
ていたのだと分りました。

平和記念公園にも行きました。原爆死没者いれいひにはた
くさんの人々がねむっていると聞きました。正面には、「安
らかに眠ってください過ちは繰返しませぬから」とときぎみ込
まれていました。まわりに家型のかこいがありました。その
間から原爆ドームが見えていたのがすごかったです。原爆
ドームは、周りにレンガがたくさん落ちていて、ドームが少
しはつきり分かるくらいで、窓ガラスもなかったのでびっく

りしました。周りの建物は、ほとんどないと聞いたので、原
爆ドームだけが残ったなんてすごくおそろしいと思いまし
た。原爆の子の像では、千羽づるをささげました。つるをさ
さげている女の子がありました。たくさんつるがあり、みん
なささげに来ていることがわかりました。爆心地は病院に
なっていました。かんばんみたいなのもあり、そこには
その当時の爆心地が書いてありました。なにもかもなく、は
かいされた建物ばかりでした。とてもおそろしいと思いまし
た。

今年、たくさんのことを学べ、たくさんの友をつくり、と
てもこわかったけれど楽しかったです。また行ける機会があ
れば行きたいと思いました。



広島での戦争、平和



久世小学校 6年

喜友名 萌 那

私は、友達に誘われて、「平和のための小中学生広島派遣団」に参加しました。戦争のことを勉強するとはわかっていましたが、応募の時は、楽しい旅行気分じゃなくて、しつかり7月14日の説明会の時に、楽しい旅行じゃなくて、しつかり戦争のことを勉強して、考える機会なのだとわかりました。その日の語り部さんの話で、戦争の恐ろしさが、よりわかりました。戦争は、絶対にしてはいけない、ということも、改めてよくわかりました。

7月26日、大きな荷物を持って、市役所に行きました。少し説明を聞いてから、バスに乗り、戦争で大きな被害を受けた広島にむかいました。バスの中では、お菓子を食べたり友達と話したり、ガイドさんの話を聞いたり、自由に楽しく過ごしました。バスが広島に入ると、戦争のことを少し勉強しました。子供も被爆して苦しむ、なにも悪くないのに戦争のせいで苦しんで亡くなってしまおう人がいたということがわかりました。

平和記念資料館には、たくさんのお出来事がかかれてあり、黒くこげたお弁当箱やその中身、三輪車などたくさんのもも展示してありました。ここで、原爆の恐ろしさがとてもよくわかりました。そして、なぜ原爆をつくったのか、とても知

りたくなりました。

語り部さんは、原爆のこと、平和のことについて話してくれました。思っていたこととちがう部分がとても多くて、本当に勉強になりました。私が一番心に残ったのは、「家族がいるだけで平和、ケンカができるのも平和、日本のあたりまえのことが平和」ということです。私の今までの「平和」とは、「みんなが仲良くいること」と思っていました。これもまちがいでないと思います。『ただいま』と言うと『おかえり』と言ってくれる人がいるということは、なによりも幸せなことだと思います。家族がいなくても、絶対に「一人」ということはないし、「自分を支えてくれる人」がいるということだけで、とても平和なのだとは思っています。

この平和をずっと何年先も続けていき、他の人もみんな幸せで平和に暮らせるようになれば、地球は平和な世界になると思います。そうするにはどうしたらいいか、もっと考えていきたいです。

今回、この派遣団に参加して、本当の平和や、戦争の恐ろしさや悲惨さがよくわかりました。今回学んだことを、いろんな人に話して、たくさんの人に知ってもらいたいです。



広島に行つて



久世小学校 6年

山本知樹

ぼくは、7月26・27日に、「小中学生広島派遣団」に参加しました。

一日目は、バスの中で5時間ほど過ごして昼食をとりました。

その後、最初に「平和記念資料館」に行きました。

中に入ってみると、外とは全然ちがう空気でした。

一番びっくりしたのは、体がとけて

「水をくれー」

「水をくれー」という人たちでした。

広島は14万人の人が亡くなりましたが

「水をくれー」といつている人が10万人以上いるということもわかりました。

中には、黒こげになった弁当箱や、古くさびた三輪車などが展示されていました。

被爆者の話で、

「体がとけているのはあんなものではない。もっとひどかった」と聞いた時は、びっくりしました。

そう考えてみると、平成時代に生まれてきてよかったです。

一日目の夜は、修学旅行のように、ワイワイと楽しい夜を

過ごしました。

二日目の朝、みんなが慰霊碑に花をささげに行きました。

折りづるをささげる時に、全体では、5万枚はいつているのかーと感心しました。

みんなは、平和のためだけにつるを折ったんだと感じました。

二日目でびっくりしたのは原爆ドームでした。なぜかという

と、コンクリートのかべがいつしゅんにしてこわされたの

に対して、残っていたからです。

その恐ろしさが伝わりました。

原爆のせいで、死んでしまった人が、どう思っているのかなーと思いました。

きつと、「米軍」をうらんでいるはずですよ。

0才〜100才までの生命がとでも残念だったと思いません。

中にはぼくのようにサッカー選手になりたかった人もいます。

でしよう。

その夢を叶えてあげたかったです。

貴重な体験をありがとうございます。

そして世界中が平和でありますように…。



戦争はこわい



久世小学校 6年

西野 優人

ぼくは1回広島島に行ったことがあって戦争のこわさも原爆のこわさも知っていたけど資料館に行ったりビデオを見ると改めて戦争のこわさを知りました。

当時の日本は戦争ばかりして日本の兵たいさんはいっぱい死んでいるのに、日本は人がいっぱい死んでいる人がいても戦争をやめないのがとても不思議に思いました。

日本は戦争をあたり前のようにやっているし「戦争は反対」と言うとか殺されたり「非国民だ」と言ってもぼくはおかしいと思います。なぜかと言うと人の命までも使い土地をうばうということがおかしいと思います。人の命か土地かどっちが大切なかぐらい大人の人はぜったいわかるのに、人の命をむだにすることはぼくはぜったいに許せません。けっきよくいっぱいの人が原子爆弾で死んだり戦死されたりしてぼくはそれで死んだ人はこう思っていると思います。「なぜぼく、わたしは死ななければならぬの」と聞いていると思います。戦争に行く人は「お国のために行く、お国のために死ぬ」のがふつうのように言っているのが「おかしいのちゃう？」と思います。

「なぜお国のために死なないといけないの」というと殺されるし、人以外でも犬、植物も殺されるので戦争なんてこの

世になければいいし核兵器もこの世からなくなればいいと思っただ。

そしてこれから世界、地球を平和にしていきたい。だからみんなが力をあわせて平和にしたいです。

ぼくはなぜ戦争ができたのかわからないです。戦争はなぜ人を殺して土地をもらうてうれしがるのか意味がわからないし戦争で死んだ人の命をどうしてくれるのか、その時にいた人に質問したいです。

ぼくは戦争は最悪だと思います。なぜかというところ関係のない人や植物が殺されてかわいそうだと思います。

戦争は人を苦しめるし人を殺してしまうこともあるのが「とても最悪だなあ」と思いました。



広島派遣団に参加して



久世小学校 6年

浦川 周馬

ぼくが、広島派遣団に参加したいと思ったきっかけは、今までは、広島や原爆のことをまったく知らなかったので、広島派遣団に参加していろいろなことを学んだり、体験したいと思ったからです。それと、テレビや本でしか、原爆ドームを見たことがなかったので、実際に行ってみたい、本物を見たかったからです。また、ちがう小中学校の人と交流して、友達を増やそうと思ったからです。

一日目に、平和記念資料館に行きました。そこには、8時15分で止まった時計や黒こげになった弁当や三輪車がありました。どれも残こくなものばかりで、原爆が落とされる前の広島は、家がたくさんありましたが、原爆が落とされた後は建物がなくなり、広島は焼け野原になってしまいました。これを見て、たった一つの爆弾で広島を焼け野原にしてしまう原爆は、すごい威力があると思いました。また、自分の住んでいる京都も、アメリカに最後の方まで目標になっていたことを初めて知って、びっくりしました。

そして、平和記念資料館地下展示場に行きました。ここには、原爆が落ちてから、水を求める人や暑くて苦しむ人の絵がたくさん展示してありました。

次に、追悼平和祈念館で被爆者の岡田恵美子さんの話を聞

きました。岡田さんは8才の時に爆心地から2・8キロメートルはなれた家でくらしっていて、たまたま、家の上を飛行機が飛んでいて、日本の飛行機だと思って、手をふった時に原爆が落ちて、被爆されました。被爆した時は、記憶を忘れるほど押しつぶされ、口や鼻からどろろい、いろいろなものを出したそうです。子どもたちはみんな母親をさがし、広島は「死の町広島」と呼ばれていたそうです。原爆が落ちた後は、病院も水も薬もなんにもなくなり、放射能でかみの毛はぬけ、歯ぐきからは血がでて、立つことすらできなかったそうです。また、被爆した子どもは学校で体そう服などに着がえる時に他の子どもから、「きもち悪い」などと言われるのでかくれて着がえたり、修学旅行やお風呂にも行けないから、すごいかわいそうだと思います。

二日目は、原爆死没者慰霊碑に行きました。そこには、原爆でなくなった人の名簿が入っていて、そこで花をささげて、祈りました。

次に、原爆の子の像の所に行きました。これは、二才の時に被爆して、十二才の時に白血病になって入院し、鶴を千羽折れば、病気が治ると言われ折り続けたが、と中で亡くなった佐々木禎子さんの死をきっかけに、その友達が国内外の友達に支えんを求めて、建設されたものです。ここでは、みんなであらかじめ作っておいた千羽鶴をささげました。

次に、原爆ドームを見学しに行きました。原爆ドームは、原爆が落ちる前は「広島県産業奨励館」と呼ばれていて、広島の特産品などを展示したり、いろいろな催し物が開かれていました。



原爆はこの原爆ドームの南東160メートルの上空約600メートルで大きく裂きました。がんじょうな建物がほね組になってしまいうぐらい、原爆の威力はすごくて、おそろしいものだと思います。

ぼくが、原爆のことを学んで、思ったことは、戦争のない平和な世界にしてほしいということです。



広島派遣団に参加して



寺田小学校 6年

小寺 旭博

バスで広島に行きました。初めに「あいおい」と言う所で昼食を食べ、平和記念資料館の見学をしました。平和記念資料館を見学して目に映ったのは、ボロボロのくつに弁当箱、それに時計全部ボロボロで信じられなかったです。原子爆弾の被害にあった人の写真をみて残こくでした。こんな残こくなことがあって助けられたらいいと思いました。

次は、資料館地下展示場の見学に行きました。そこにも、残こくなことがありました。そこには、絵がかざってありました。それは、原子爆弾が落とされて水がほしいと言っている人の絵がありました。

次に、被爆者の岡田美恵子さんに、原子爆弾を落とされてどれだけ苦しかったかを聞きました。その岡田さんは、外に出ようとしたときに被害にあつて苦しんでたそうです。それで、これからも平和になってほしいと思いました。

その次は、バスで、旅館に行きました。それで、風呂に入り、夕食を食べ、自分が一日で、何を学んだか考えてミーティングをしました。それで、ねました。

次の日、旅館を出発して、広島平和記念公園に到着して、花をかざっておいのりしました。

次に、原爆の子の像の所で、折鶴を捧げました。写真をとりました。

その次に、原爆ドームに着きました。

原爆ドームを見ると、今にもくずれてきそうに思いました。

原爆ドームを見ると、中が見えていました。

その後、爆心地の所へ行きました。ここに原子爆弾が落とされたのかと思いました。

この後、広島風お好み焼きを作りました。とてもむずかしかったです。でもおいしかったです。広島風お好み焼きを作ったら広島を出発して城陽に帰ってきました。こっちに帰って来てあらためて思ったことが、これからも平和でいられるように。



広島派遣団に参加して



寺田小学校 6年

山口歩人

ぼくが「平和のための広島派遣団」に参加したのは、友達にさわれたからです。

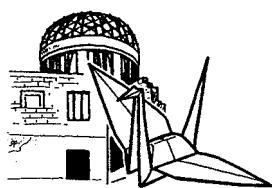
広島のことには、そんなに知らなかったけど、「はだしのゲン」の本は、読んだことがあって、広島に原子爆弾が落とされて、人や町がめちゃくちゃになったのは、知っていました。でも、広島に着くと、とっても大きなビルがいっぱいならんでいて、木や草なども、とっても、いっぱい生えていて、とてもびっくりしました。昼ごはんを食べて、平和記念資料館に入るまでは、友達といっぱいしゃべっていたけど、中にはいって、原子爆弾が落とされる前の写真と落とされたあとの写真を見て、ぜんぜんちがうのに、びっくりしました。落とされる前の写真には、家がたくさんならんでいたけど、落とされたあとの写真には、ほとんど、なにもなかったことにとってもびっくりしました。次に、とても大きな、きのこ雲の写真を見て、ちよつとだけこわくなりました。きのこ雲の写真は、はじめて見てとてもはくりよくがあつてびっくりしました。あとガラスのビンが、ふんにやりねじれていたのに、びっくりしました。写真とビンを見てから、原子爆弾のおそろしさがだんだんわかってきました。次に、ビデオを見ました。原子爆弾が落とされて、人の目玉がとれたり、人がものすごい爆風で

ふきとんだりしているところを見て、原子爆弾の力がとても、こわかったです。次に、岡田恵美子さんの話を聞いて広島や長崎に落ちた原子爆弾の名前がわかりました。その時に、「原子爆弾に名前なんてあるんだな」と思いました。原子爆弾のなかみは、放射能や、色々つまっていると聞いた時、一番こわいのは、放射能かなと思いました。なぜかという、放射能は、目にも見えないし、においもしないからです。

二日目は、主に、「平和記念公園」を見学しました。爆心地の近くに、大きなビルがたっていて、びっくりしました。原爆ドームに行くと、ガラスもなくて、れんがが、つぶれていて、鉄骨の一部が見えていて今にも、たおれてきそうでした。

昼食は、広島焼きを自分でつくりました。一回目びっくり返すときは、ばらばらになったけど二回目は、きちんとできました。おじさんがわかりやすく、教えてくれました。一回目は失敗したけど、とてもおいしかったです。

広島のことと原子爆弾のことが知れてとてもよい経験になりました。



広島に行つて



寺田西小学校 6年

山崎 有澄

わたしは2日間、戦争の勉強のため、広島へ行つてきました。た。

1日目バスに乗って行きました。

ちがう学校の人も、友達になれて、楽しい気持ちでした。広島も明るい所でした。

そこまでは、わたしは、楽しいことなどいっぱいでした。平和記念資料館へ行き、中を見学したとたん、わたしの楽しい気持ちは、どこかへ消え、戦争のおそろしさ、悲しさなど色々な気持ちがこみ上げてきました。

わたしが一番印象に残ったのが、体などが「どろどろ」になり、ひふなどがはがれている物でした。見たとたん、目をかくしたくなるような物でした。

だけど実際は、そんな人が何人もいたら嬉しいです。

ほかにも、黒い雨が降っていたかべや、戦争がはじまつたくらいに止まった時計や、ぼろぼろになつてしまつたお弁当箱などがありません。

それを見ると、本当にこわかつたんだと思いました。

戦争にあつた人の家族の人がなくなつたという話では、わたしにとってお母さんなどの家族がいなくなることは信じられません。なので、本当につらかつたんだなあと思います。

被爆者の方のお話を聞いたことは貴重なことだと思いました。戦争のことなどにも知らなかつたので、貴重な1日だったと思いました。

2日目は、原爆死没者慰霊碑に行き、花をささげました。ささげる時、こんなひどいめにあわないように。平和をこれからも守ります。という願いで花をささげました。

次に、原爆のさだ子という子の像に行き、折りづるをささげました。色々な所から、折りづるがきているので、たくさん数でした。平和という字になっているつるや、PEACEという字になっているつるもありました。

折りづるがたくさんあつたことに、平和のことをたくさん思っている人がいるんだなあと思ひ感動しました。次に、追悼平和祈念館に行き、被爆された方の写真がありました。

写真を見ると悲しい気持ちにしかありませんでした。一つの爆弾でたくさん命がうばわれていくことにたいして、なぜ戦争をするのだろう。なぜ、人をたくさんなくしていつているのだろう。意味もなく、人を殺さないでほしいと思います。

わたしたちがふつうにくらしているのも、平和なんだと思つてくらしていききたいです。一日一日を大切に生きていこうと思ひました。

本当に、広島派遣団に参加できてよかつたです。

広島派遣団になって



寺田西小学校 6年

橋本健吾

ぼくが、城陽市の広島派遣団になったのは、自分が行きたいと思ったからです。前にも、広島に来たことがありました。けど朝、市役所が集まると、ワクワクしました。

約5時間、広島に着きました。原爆が落ちたとは思えないほど、きれいでした。

まず、昼食を食べに行きました。そして、また少しバスに乗り、次に平和記念資料館内を見学しました。ここでは、原爆が落ちた後の広島の様子やボロボロの服、止まった時計などいろんな資料がありました。なかには、残こくな写真やもけいがありました。資料館には、原爆が落とされてからの日数が表示されている時計がありました。「24461日（7月27日）」次に、地下展示場に行きました。ここには、本当に被爆した人が描いた絵やまつ黒なお弁当が展示してありました。最後に、被爆者講話を聞きました。講話では、原子爆弾の強さ、おそろしさや被爆後の人々の様子をくわしくお話してもらいました。

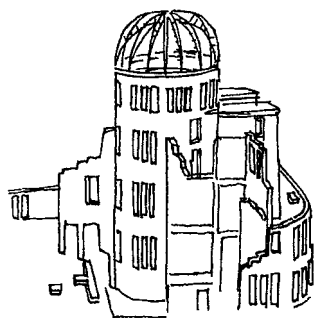
バスで旅館へ行き、入浴、夕食をすませてミーティングをしました。ミーティングでは、折りづるを束ねて千羽づるにしました。1日の感想では、伝わったかはわからないけど、感想をしっかりと言えました。その後、部屋でみんなとしゃべっ

たりして、ねました。

2日目、朝食を食べて荷物を持って一階で待つ間におみやげを一つ買いました。そして旅館を出発しました。

最初に、原爆死没者慰霊碑に花を捧げました。次に原爆の子の像に昨日の折りづるを捧げて集合写真をとりました。次に原爆ドームを見て、爆心地の島外科を見ました。それから平和祈念館に入り見たり、聞いたりしました。昼食にお好み焼きを作りました。ぼくはねぎをいっぱいのお好み焼きを作りました。けっこうきれいな形でよかったです。食べ終わりバスに乗り、城陽市役所へ帰ってきました。

ぼくは、この2日間で原爆のこわさ、おそろしさがとても分りました。中でも本当に放射能はとてこわいです。目には見えないし病気の原因になるからです。今世界には核兵器が約23300個もあると知ると、その核兵器全てをなくすのは、無理かもしれないけど、一つでも多くなることと、戦争が起こらない世界を強く願っています。



戦争の恐ろしさ



寺田西小学校 6年

小原 諒 士

1945年8月6日8時15分広島に「リトル・ボーイ」という名前の原爆が米軍によって広島に落とされました。

ぼくは、両親にすすめられて応募しました。最初、ぼくは広島や原爆の事を知らなかったから一泊二日の旅行という風に楽しみにしていました。

そして現地に着きました。しかし、草木が生えていてすごく豊かでした。資料館にいくと今までの気持ちが一変しました。そこには変わりはないが広島がありました。

8時15分に止まっている時計などがありましたが、その中で一番印象に残ったのがひふがただれ顔がはれた人のもけいです。一目見て、目をそむけたくなるくらいひどい状態でした。

「原爆が落とされた後、そういう状態の人がいっぱいいたんだなあ。」

と思っただけでぞっとしました。次に被爆者の話を聞きました。被爆者の人は話している間に泣き始めました。ぼくは、「思い出しただけで、泣くぐらい戦争はひさんだったのかな。」

と思うと今でも心が痛みます。

次の日、おりづる（千羽鶴）を平和記念公園に平和を祈っ

てささげました。

次に、原爆ドームに行きました。原爆ドームのこわれ方が戦争や原爆の恐ろしさを物語っていました。だけど、周りを見るとビルなどが建ちならんできます。原爆が落とされた後の町とくらべて、

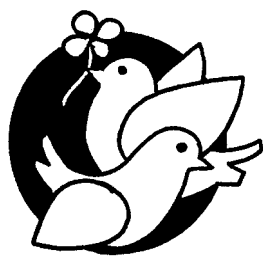
「今のぼくたちは幸せだな」

と改めて実感しました。

そして、バスに乗り帰りました。

今の日本は平和です。ですが、過去の日本があったからこそ、自分たちは幸せな生活を送れるんだと思います。だから、過去の戦争の恐ろしさを知って一生忘れない貴重な体験をできて良かったです。

戦争は悲惨なものです。だから、二度と戦争は起きてほしくないです。しかし、世界には戦争をしている国がたくさんあります。だから、一秒でもはやく世界に戦争がなくなっほしいです。そのためには、これからの、ぼくたちのしなければならぬ事は何かしっかり考えていきたいです。



広島にて



寺田南小学校 6年

奥田 愛子

わたしは、一日目行くとき、不安と楽しみだと不安の方が多くなっていました。

でも、バスに入って出発すると、楽しみの方が多くなりました。

バスの中で、ビンゴと逆ビンゴをしたときに、ビンゴの時はなかなか穴が開かず、逆ビンゴのときはすぐに穴が開いたので運がないと思いました。

そして広島に着きました。そこでまずは昼食を食べ、広島平和記念公園にある平和記念資料館に行きました。

そこで、ナビゲーションてきな物をもらい見学しました。

その資料館には、当時の遺品や、その当時のもけいがあり、すこしかなしくなって泣いてしまいました。

その後、資料館地下展示場に行きました。

そこには、広島原爆が落とされた当時のことがわかるような絵がかざられていました。

その絵は、いろいろあったけれどどれもひさんな物をえがいていると思いました。

その後、追悼平和祈念館で、被爆者の人の話を聞きました。

1つでものごい力を持つ核兵器が、なぜ約2万個も世界に存在しているのかと思いました。

旅館では、千羽鶴を束ねたり、思ってたことを言ったりしてこの日は、へやにもどってそっこうねました。

二日目、この日はまず旅館から出発し、広島平和公園にある、原爆死没者慰霊碑に花を捧げました。

花を捧げた後、広島一中原爆慰霊碑の前で手をあわせた後、原爆の子の像に、千羽鶴を捧げました。

千羽鶴は、原爆の被害者へのおくり物のような気がしました。

そして、原爆ドームに着き、そこにはレンガのざんがいや、鉄骨を丸だしになったドームがあり、もえたなにかがちがうかんじというイメージができました。

その後、爆心地の場所に行った時には、爆心地とは思えませんでした。

もう一度、追悼平和祈念館に行き資料などを見ました。

記ろくは、とてもいたいたい内容ばかりだった。だから核兵器がすこしずつでもいいからなくなってほしいと思います。

その後、広島風お好み焼きを作りほとんどのこさず食べ、バスに乗り一泊二日は、ぶじにおわりました。



広島県に行つて学んだ事



富野小学校 6年

田中萌葉

夏休みにはいる前、私の学校では第二次世界大戦のお勉強をしていました。1941年12月8日〜1945年8月15日までの長いおそろしい戦争でした。そして、8月6日広島に世界で初めて原子爆弾をアメリカ軍に落とされたことを知りました。そして広島派遣団の応募を見つけました。その広島派遣団で学んだことが3つあります。

一つは、原爆・戦争のおそろしさ
二つ目は、命の大切さ
三つ目は、今、自分が平和にくらしているというありがたさです。

原爆という物は、とてもおそろしい物です。人の命、家、学校、なにかもうばつていってしまうのです。そして何も関係ない、その当時戦争がおきていることのしらない赤ちゃん子どもまで命をうばわれるのです。4000度以上の熱、台風よりも強い風、放射能が原子爆弾リトルボーイの中に入っていたのです。そして同じような原子爆弾パンプキンが長崎にも落とされたそうです。広島に原爆が落ちて3日後に長崎に落とされました。考えるだけでひさんでおそろしい物だという事を平和記念資料館や被爆者の人の話で分かりました。

今、私には家族、友達があります。失敗した時や、悲しい時、家族や友達のはげましてくれれます。私には生きる希望があります。弟とケンカもします。私は広島へ行くまで、ふつうの生活だとは思いませんでした。でも被爆して、なんとか生き残った人は、家族を、友達をなくした人もいます。その人達は、今、自分たちのふだんの生活がうらやましかつたと思います。だから、戦争で平和な暮らしができなかつた人のために、毎日を大切に生きていきたいです。この2日間で行くいろいろな事を学ぶことができました。とても貴重な体験になり、広島派遣団になってよかったと思っています。これからの地球が戦争のない平和になってくれることを願っています。最後に被爆者の方々、広島へ引率してくださったの方々、お世話になりました。



広島で学んだ事



富野小学校 6年

小林 真菜

私は、この広島派遣団に参加して、いい体験になったと思います。

8月6日、あつい日に、原子爆弾が落とされたとき、まっ黒にこげたお弁当箱などが展示されていて、その物が、ひさんな形で残っていました。中にはガラスびんが曲がってとけかけていました。さだこさんのお話を聞き、何もやっていない人までがぎせいになって、本当にかわいそうだなと思いました。私は、平和の子の像の所で千羽のつるをささげました。

そして、原爆ドームを見て、こんなに大きなたて物でも、ガラス1つ残っていなかったの、おどろきました。

1日の内にこんないろいろな人や物をひさんな形にする爆弾を、もうこれからずっとつかってはいけないなあと思わためて思いました。

次に私ははじめて、広島焼きを自分で作って食べました。やきそばみたいだけど、おこのみ焼きで、おもしろい食べ物でした。それと、もう1つびっくりしたものがキャベツで、すごくたくさんもっていました。

食べてみるとすごくおいしかったです。



2日間を楽しくいい日にできて、よかったと思いました。

平和を願って



奈良育英小学校 6年

後宮 尽我

毎年8月になると、戦争や原爆のことがテレビや新聞などで取り上げられます。映像や写真だけではなく、実際の広島を自分の目で見るために、この広島派遣団に前から参加したいと思っていました。

広島に到着し、まず感じたのは、明るくきれいな街だということでした。67年前に原爆が落とされ、焼け野原になったとは思えないくらい、緑も多く、建物もたくさん立ち並んでいて、活気を感じる街になっていました。

しかし、最初に訪れた平和記念資料館で、時間が一気に戦争の時代に戻った気がしました。これまでに資料でしか見た事のないものが目の前にあり、当時のままの姿で展示してあります。8時15分で止まった時計を見ると、この1分前までは、世の中がいつも通りに動いていたことや、この一瞬で全てのがうばわれたことを僕たちに伝えてくれるように言葉が生まれませんでした。他にも、黒こげになった弁当箱や三輪車、とけたガラスびんや焼きついたかけなどを見ると、想像もつかない熱風が街をつつみ、人々が苦しみながら水を求めて歩いていたあの光景が、本当のものだったということを感じ知らされました。

翌日の平和記念公園では、原爆死没者慰霊碑に花をささげ、

原爆の子の像にみんなを持ち寄った折り鶴をささげました。僕が、今回一番見たかったのが、この原爆の子の像でもありました。昨年、この像についての話を聞く機会があり、原爆による白血病で亡くなった佐々木サダ子という女の子の同級生たちが、彼女の死を悲しみ、二度と戦争や原爆によって人の命がうばわれないようにと願って募金活動をして建てたことや、病気が治ると信じて、明るく鶴を折り続けたサダ子の思いなどを知り、僕も自分の折り鶴を届けたいと思ったのです。世界中から届けられたたくさんさんの鶴を見て、みんなが平和を願っているんだということを確かめることができ、この気持ちはこの場だけでなく、帰ってから毎日の生活の中でも持ち続けなければいけないと強く感じました。

同じ城陽に住みながら、違う学校や年齢で、初めて会ったお友達が多かったですが、この二日間で、平和学習をしながら一緒に行動できたことはとてもいい経験になりました。この派遣団に参加した一人一人が、それぞれに感じた平和のありがたさをしっかりと伝えていけば、二度とあのような恐ろしい出来事は起こらないと思います。

広島は僕たちに、戦争の恐ろしさと平和の大切さを教えてくれたのと同時に、復興する力も見せてくれました。力を合わせれば、明るい未来を守っていけると思っています。それを学ばせてもらった広島の子、お世話になったみなさま、ありがとうございました。

世界が平和になりますように



深谷小学校 6年

河合陽菜

私は初めて平和記念資料館に行きました。そして被爆者の話を聞きやはり戦争は絶対にやってはダメなことで人が人を死に追い遣る恐ろしさなども知りました。

平和記念資料館には、8時15分で止まった時計、黒こげになった弁当箱、人影の石、そしてこげてしまった三輪車や皮ふやつめがとけてぶらさがり骨が見えながらも水を求めてさまよう人形も展示され、町が一しゅんで破壊されてしまったことも想像でき、そして、も型を通じて分かったこともありました。

そして、次に被爆者の話を聞きました。とっても大変で苦労しながらも、一生懸命に生きたことも伝わってきました。そして、他の人々も同じような目にあわれ「助けて」「熱いよ」といって助けをもとめていたこと、そして、拾って食べるゴミすらなくて、人の物をうばってでも食べ物が食べたい気持ちなども分かりました。戦争は、罪のない子どもたちにも苦しく、残こくな思いをさせてしまいました。たった10秒ほどで何もかもがなくなり、大勢の人の命もなくなりました。「一寸先は闇」という言葉が頭の中によぎっていききました。

しかし、「これをしたのは同じ人間、だからやめるのも人間」と言っておられたので早く戦争がなくなるとほしいと思います

す。日本は、もう戦争をしないことになっていますが、世界には、まだ苦しんでいる子どもたちがたくさんいます。

例えば、戦争をしている国の子ども達に、食べ物あげたら、そこから40人くらいの子どもの骨が「わー」と来て食べ物求めて来る。石をどかすと骨があった。他の国は敵だと教えられた子どもたちだけ「日本の子と友達になりたい」「食べ物あるの?」と聞かれとっても悲しかったそうです。たぶん私もとっても悲しくなるでしょう。話を聞いただけでも悲しくなったからです。そう思うと、岡田さんの言ってる下さつたとおり家族と笑ったり話したり、一緒に居るだけで幸せなのかもしれません。私たちのあたりまえのような生活がある国では、そして、昔の日本のような所では、とっても幸せなんだと思います。

命は、一人に一つだけしかない、とってもとっても大切なものだと思います。

次の日、原爆死没者慰霊碑で花をささげ世界中が手をとって笑えるくらい幸せになりますようにと願いました。そして少し歩いて、原爆の子の像にみんなで作った折り鶴を捧げました。次に原爆ドームに行きました。石がくずれ鉄骨がみえていて、もう二度と戦争をしてはダメだということが伝わってきました。早く武器を捨て平和になってほしいです。

今回広島派遣団に応募しているりと貴重な話も聞けて本当に良かったです。来年、今年行けなかった人達に「行った方が良いよ。」と言おうと思います。ありがとうございました。

広島派遣団に参加して



深谷小学校 6年

一 瀬 真友子

1945年、8月6日、午前8時15分、広島に世界で初めて原子爆弾が落とされました。そのしゅんかんにきのこ雲がいつきに上がりその爆発で二十万人ほど亡くなったことを広島派遣団に参加して初めて知りました。

まず最初に平和記念資料館に行きました。そこは原爆ドームが再現されてあったり広島が爆弾を落とされる前と後の模型を見ました。日本は、落とされる前から戦争が始まっていて生活が苦しく爆弾は毎日の日課のようなものだったそうです。でも広島はにぎやかな町でしたが、辺りは静まりかえったそうです。

8月6日に落とされた爆弾は放射能をばらまき多くの人を殺していききました。

昔、さだこちゃんという女の子がいて2才のころ原子爆弾を逃れましたが、十年後、白血病で入院しました。原因は2才の時にあった放射能でした。さだこちゃんは白血病にきく苦い薬のつつみ紙やあめ玉のつつみ紙などで千羽づるをつくっていたそうです。でも、964羽のところまで亡くなられました。

こんなふうに、やけどをしてなくても亡くなってしまいう人が多数いたそうです。

次に爆発するしゅんかんを画面に映した映像を見ました。きのこ雲は学校ぐらいの大きさになりすごい光がさしこんできました。その時、すごい高熱がおそいかかったそうで、人々は肉がたれさがりかみの毛がさかだちました。わたしはその人のもけいを見て生きてるのか死んでるのか全くわかりません。

熱くて熱くて川に飛びこんだ人が何人もいて何人も人が死んでいます。

人だけでなく物も形がゆがんでいたりこわれたりしていました。原爆ドームは上の半円になっている所に昔、ガラスでおおわれてましたが原爆のせいで、ガラスの破片は一つもついていません。

男性の着る学生服は焼けこげていてとても着れる状態ではありませんでした。

弁当箱はごはんや具が入っていたらしいですが中身は丸こげで弁当箱の外側は形がくずれていました。

最後に実際被爆された人の話を聞きました。その人の話によると亡くなった人の骨を粉にしたものを葉のようにして飲んでいたららしいです。その時代に生きている人は、生きる希望がなく、人の食料でも取って食べていたららしいです。道を歩くといつも足もとにはがい骨が転がっていたそうです。世界にはまだ戦争がある国がありますが、このような多くの命をうばう爆弾が減らせるようにするにはどうしたらいいか考えたいです。

命の大切さ、平和の尊さ、私達の幸せさ



深谷小学校 6年

西野 七海

私が今回、この広島派遣団に応募した理由は、命の尊さや今、私達が幸せであり、恵まれていることを改めて知り、再確認するために良いと思ったからです。私はいつも、友達や家族とけんかをする時、その勢いで、「死ぬ！」とか「ウザい」とか心にもないことを言ってしまう。その言葉一つで、どれぐらい人が傷付くか、自分も言われたことがあるのでわかります。だから、自分でも言いたくない言葉が、つい勢いで言ってしまう。だから、そんな言葉や、戦争、核兵器という言葉無くすため、自分にも何か出来るのではないかと思っていた時、偶然この企画を見つけ、応募しました。広島に行き、戦争の恐ろしさをこの目で見、耳で聞いて、改めて応募して良かったと思いました。

何より恐ろしさを感じ、そして感動したのは、講話でした。やはり、体験談は、実際の様子を目で見、音を耳で聞き、写真を見たり、話を聞いてこんなに恐ろしさが伝わってくるのに、もっと辛く、悲しく、恐ろしい事を体験され、その辛さは、私達にははかり知れないぐらいの恐怖だと思います。

こんなにも核兵器が恐ろしい事をわかっているはずなのに、原子爆弾でこんなにたくさんの方が亡くなっていることを知っているはずなのに、お金のために原子力発電所を再稼

働させる今の政府は何なんだろうと思ひ、その人たちの気が知れません。今の政府や電力会社の人たちは、国民の命よりも金の方が大切なんだと私達は思わざるをえません。

私のひいばあちゃんとはあちゃんの実家は広島にありません。幸い家が山の中にあり、爆心地から離れた場所にあったので被災はしませんでした。同じ広島県内でそのような事が起っていると恐怖心はあつたと思います。原爆が落とされた当時、ばあちゃんは生まれていませんでしたがひいばあちゃんは二十代ぐらいだったと思います。でも、ひいばあちゃんは今でも元気に生きています。それが、どんなに幸せか、身にしました。だから、この時代に生まれたからには、私達の後の世代の子たちにも核兵器は恐ろしい、戦争は危険という事を伝えて、百年後には、戦争、核兵器が世界中から無くなり、平和になっていることを願っています。



広島派遣団に参加して学んだ事



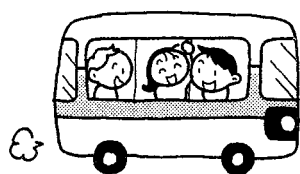
古川小学校 6年

岡田高明

ぼくがこの広島派遣団に参加した理由は、ぜんぜん知らなかった原爆の事を学びたかったからです。最初にバスに6時間乗りました。おかしを食べたりしゃべったりしてしているとあつというまにすぎてしまった楽しい時間でした。平和記念資料館に行くとそんな楽しい時間はどこかへふきとんでしまいました。黒こげの弁当、黒こげの三輪車、ボロボロの衣服など目をおおいたくなるようなひさんな物ばかりでした。原爆はこんなにこわいんだと思い体がガタガタふるえました。それから地下展示場を見たらひさんな絵や写真がありました。ほとんど原爆が落ちた後のじょうきようでした。あたりが一面焼け野原で死んでいる人がたくさんころがっているひさんな絵がたくさんあり息を飲むほどでした。それから被爆体験者の話を聞きました。8月6日雲ひとつない空で朝8時15分に原爆が落とされてまわりは東日本だしんさいと同じぐらいひどかったと言っておられました。あと「じごくのようだった」「日本の事として伝えてほしい」「日本はいつも平和」という言葉が心の中に残りました。それから旅館に行ってお風呂に入って夕食を食べました。おいしかったです。次にミーティングをしました。ちゃんとみんなの前で一日の感想が言えたのでホツとしました。それから部屋にもどって

しゃべってから十時にねました。

次の日、朝起きて朝食を食べてから平和記念公園に行きました。最初にお花をささげました。手を合わせて「天国にのぼりますように」といのりました。それから原爆の子の像におりづるをささげました。ふとまわりをみるとおりづるがすごくたくさんありました。こんなにたくさんのおりづるがあり、こんなに人がきていのっているんだなあとみていました。それから原爆ドームを見ました。ボロボロでかべがところどころ地面に落ちていました。こんなにすごいりよくの爆だんをなぜ作る必要があるのかなあと疑問に思いました。それから国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行きました。ここでは体験記を読みました。次に広島焼きを焼きました。すぐおいしく一枚でおなかいっぱいになりました。それからおみやげを売っている所でもみじまんじゅうとくりまんじゅうとストラップを買って市役所まで帰りました。家までの帰りの夕日を見ると原爆の話を思い出しました。この広島派遣団に参加し学んできたことを他の人たちに伝えたいと思います。本当に貴重な体験をしてよかったです。



平和の尊さを教えてくれた広島



北城陽中学校 1年

朝子 陸 矢

原爆投下のターゲットにあったのは、小倉、広島、新潟、そして、今ぼくたちがすんでいる、この京都の四つでした。

しかし、京都は、前に京都を訪れた事のある陸軍長官の反対などで、保留となりその後京都の変わりとして、長崎が候補になりました。

そして、1945年8月6日雲一つない広島に8時15分、ラジオが「敵大型機三機、西条上空を」と放送した所で「ピカッ」という強い閃光が走り、一大爆発音が起きたそうです。岡田さんの話によると、朝7時に空しゅう警報は解除されていたそうです。だからみんなは、仕事や学校に普通に行っていたとおっしゃっておられました。そして全身にやけどをおった人も、そこらじゅうにころがっている人骨を粉にしたものをぬるしか方法がなかったそうです。

それから67年たった2012年、ぼくは二度とあんな事がおこらないようにと、広島派遣団として広島に行きました。あたりまえですが、今の広島は、原爆投下当時とは全く違いました。そこは、ビルやマンションなどがたちならび、まるで京都市内に来たような感じでした。しかしそこに一つだけボロボロの建物が元安川の近くにありました。それは広島県産業奨励館いわゆる、原爆ドームでした。

その後、資料館へとむかいました。そこでぼくは最初写真をパシャパシャととっていました。本館に入るにつれてだんだんとむごたらしい写真などに変わってきて、何個かは、写真をとろうとしてもとれませんでした。

それは、全身やけどの少女の写真、着物のあとが残った体の人の写真、かみの毛がぬけおちた人の写真、そして一番印象に残ったのが、服がボロボロで、かみの毛がボサボサで手や顔のひふなどがドロドロにたれさがった人のもけいでした。

しかし、ぼくはそのもけいを見て気がつく事がありました。それはそのもけいが赤いライトでとらされていた事です。あのライトは火災の意味か知りませんが、そのライトで照らされてよりこわく気持ち悪くしてあったのです。それをみてぼくはあれは間違っているのではないかと思いました。だって被爆者の人は、そのむごたらしい姿を、こわいとも気持ち悪いとも絶対に思っただけなかつたと思います。ただその人は自分の命がほしいので、「助けて、水くれ。」とさげんだだけだと思えます。そして、そのもけいの前にいたボランティアの人はこんな所じゃなく男か女か性別もわからないくらいだったとおっしゃっていました。

そして最後に、世界から核兵器をなくす事はとてもむずかしい事だと思えます。しかしぼくが行った時にも外国人の観光客が資料館でおそろしい光景をみて、「ワーオ」と言っていたのを覚えています。だからそのように、どんなに核兵器がおそろしいかを世界中の人に伝えるのが、なくすための第一歩になると思います。

広島に行つて



北城陽中学校 1年

加藤 成 希

僕は、7月26日広島派遣団として広島に行きました。

半分は勉強、半分は旅行で行った広島。

バスはワイワイとにぎやかでした。まず広島に行つて昼ご飯を食べました。その時にもにぎやかでした。

そのあと、平和記念資料館に行きました。にぎやかだったみんなの気持ち、一瞬にショックへと、変わりました。資料館はすごく残酷でした。原爆投下後の町はほとんど何も残っていなくて、一瞬にしてたくさんの方の命をうばいました。

1945年8月6日の8時15分B-29によって、原爆が落とされて、この原爆で約14万人が亡くなりました。しかも、今もまだ後障害で苦しんでいる人たちがいることも知りませんでした。原爆を落とされる前の広島と原爆を落とされた広島の違いにビックリしました。

次に、被爆者が描いた絵や写真が展示されてある地下に行きました。

次に被爆者の話を聞きました。その話からは、原爆の恐ろしさが伝わってきました。

2日目には、慰霊碑に行き花をささげました。そして、原爆の子の像に昨日みんなでメッセージをかけた折りづるをさ

さげました。みんなの願いが届いてほしいと思いました。

原爆ドームは、原爆が落ちた時のままで、広島に原爆を落とされた事を忘れないようにそのままの形で残してある事がすごいと思いました。レンガにひびがはいっていたり、鉄骨がむき出しになっていたり、そんな原爆ドームを見ると原爆投下後の広島が想像できました。

次に国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行きました。被爆者の話をパソコンで見ることができました。

広島派遣団を終えて僕は、まず行って良かったと一番に思いました。もともとは、学校の先生に進められたのもあるけど、自分自身広島についてもっとくわしく知りたかったから広島派遣団に入りました。広島に実際に行つてみて学校の授業で勉強した戦争の怖さよりも原爆とはすごく恐ろしいものだと思いました。

この広島派遣団に参加できて、貴重な体験をすることができ、平和の大切さを学び戦争はしてはならないものだと強く思いました。

日本はもちろん世界中で戦争をしないためにも僕が学んできた事を、ほかの人にも伝えていきたいと思いました。

これから先、戦争も核兵器もない平和な世の中になるように願っています。



広島へ行って



西城陽中学校 1年

河田 そら

私は、友達にさそわれて、戦争や原爆についてくわしく知りましたので、広島派遣団に参加しました。参加するまでは、ただ怖く恐ろしい事しか知りませんでした。

広島には、バスに乗って5時間ほどかけて着きました。

初めてみた広島は、たくさんの人、大きな建物、とてもにぎやかで緑がいっぱいのきれいなところでした。こんなきれいな町に原爆が落とされたの？と目を疑うほどでした。

1日目は、平和記念資料館と資料館地下展示場を見学しました。

そこには今までは考えられない悲惨なものが次々と目に飛びこんできました。黒こげになったお弁当、8時15分で止まった時計、焼きこげた学生服、皮ふがたれさがった模型など当時の原爆の恐ろしさが想像できました。

被爆体験者の岡田さんの話も聞きました。当時はラジオしかなく、飛行機が毎日のようにとんでいてビクビクする日々だったそうです。他にも一瞬にして7万人の人がなくなり何がおこったのかわからない状況だったと聞きました。その中で一番印象に残っていることが、普通のことや幸せで平和だということなんです。今の私達は家族がいて食事ができて学校にも行けて…当たり前前のができていることに感謝しなければ

ばいけないと思いました。

2日目、広島平和記念公園に行きました。初めに、原爆死没者慰霊碑に行き花をささげ、原爆の子の像に行きみんなで束ねた折りつるとメッセージをささげました。その後、原爆ドームを見に行きました。石がくずれて鉄骨が見えているところもあり、どれだけ恐ろしいのかよく分かりました。

私は、この広島派遣団に参加し戦争や原爆の恐ろしさ悲惨さがとてもよく分かりました。二度と戦争がおこらない、核兵器のない世界になってほしいです。そして、世界中が笑顔で平和にくらいしていけることを願っています。こんな貴重な体験ができて本当によかったです。



広島派遣団に参加して



西城陽中学校 1年

武田 多恵

私が広島派遣団に参加した理由は、原爆の恐ろしさを自分の目で見て、自分の耳で聞き、学びたいと思ったからです。

以前に私の二人の姉がこの広島派遣団に参加しました。その姉たちからは、「今の広島は思っていたよりもきれいでびっくりました。」と聞いていました。しかし、今回実際に広島に行ってみると想像以上に、広島町は近代でした。高層ビルが建ち並び、立派な建物が多く、ここに原爆が落ちたということは、原爆ドームを見てやっとわかるくらい当時の残こくさを感じさせない美しい町でした。

まず、私たちは平和記念資料館に行きました。資料館には、「8時15分で止まった時計」「さびこげた三輪車」「真っ黒にこげた弁当箱」などが展示されていました。特にその中でも印象に残っているのは、原爆が落ちた後の被爆者の模型です。全身の皮ふがただれ、髪の毛はボサボサでした。おもわず目をそらしたくなるような悲惨なものでした。「一瞬にして『も』も、『人』もこんなに変わるんだ」と核兵器に対して恐怖を感じました。

被爆体験者の岡田さんの話は、とても迫力がありました。体験者からしか学べないような大切なものが伝わってきました。話の中で私が今いる広島でこんなことが起きていたんだ、

という信じたくないような原爆の恐ろしさがわかりました。岡田さんはとても苦しそうでしたが思い出したくないようなつらい体験を私たちに話して下さいました。岡田さんたち被爆者の思いや願いをしっかりと受け止め、次は私たちが伝えていく番だと思いました。

私は広島派遣団に参加して戦争・核兵器の恐ろしさを学び、平和の尊さについて考えることができました。

今、この時にも世界には数えきれないほどの多くの核兵器があるとききます。そして、こうしている間にも戦争によって苦しんでいる人々もたくさんいます。私は核兵器や戦争のない平和な世界ができることを願っています。しかし、思っているだけでなく、自分が世界平和のためにできることは何かを探していきたいと思います。

例えば、今回広島に行つて私が感じたことを、身近な人からでも伝えていきたいと思います。私も広島派遣団に参加するまでは、知らなかったことも多かったです。

また、過去に起こった戦争のことや今なお起こっている戦争のことなど、もっと学んでいきたいと思っています。今までも、祖父母から戦時中の生活のことを聞いたり、映画や本で知っていることもありました。でも、これからは世界のことも、目をむけて学習していきたいと思っています。



広島派遣団に参加して



南城陽中学校 1年

長澤 知穂

私が広島派遣団に参加しようと思ったのは、私が小学2年生の時に、姉が広島派遣団に参加していて、その時の話を聞いていたのと戦争について知りたいと思ったので応募しました。

私は広島派遣団に参加する前に、一度、学校で戦争について勉強したことがあったので、戦争について知っているつもりでした。けど、現実とは全然違いました。

広島に着いて、初めに、平和記念資料館に行きました。資料館には、8時15分で止まった時計、ケガや火傷をおった人の写真、原爆が投下された時の状況を示すジオラマなどが展示されていました。その中でも一番しげきだったのは、爆心地付近の原爆が投下される前と投下された後の模型です。原爆が投下される前は、家や建物がたち並んでいたのに、原爆が投下された後は、家や建物がつぶれてぺちゃんこになり、電柱がぐにやりと曲がって元の町並があとかたもなくなっていたからです。原爆が投下されたあの一瞬で、何十万人という人が亡くなり、家や家族、生活をうばわれこわされたと思うとすごく怖かったからです。本当に原爆はおそろしいものなんだと感じました。

次に、被爆体験者の岡田さんの話を聞きました。岡田さん

は最後に「今、生きられることはとても幸せなこと。」とおっしゃっていました。家族がいること、帰る家があること、毎日おいしい食事が食べられること、好きな服を着たりできること。あたり前のようだけど、とつても幸せなこと…。そう聞いて、私が今生きられることに、毎日不自由なく生活がおくれることに感謝しなければいけないと思いました。

翌日、広島平和記念公園を見学しました。そこで原爆死没者慰霊碑に花をささげました。そしてそこから少し歩き、原爆の子の像に折り鶴をささげました。他にも折り鶴がたくさんで、それぞれメッセージや色とりどりの鶴がありました。私は、みんなが「平和」という願いにむかって一つになっっているなあとたくさんささげられている折り鶴から感じました。

次に、原爆ドームをみました。原爆ドームは間近で見るとすごく迫力があり、そして、原爆の怖さ、戦争のおそろしさが伝わってきました。だからこそ、このような悲劇を絶対くり返してはいけないなっと思いました。

戦争は本当に悲惨でおそろしいです。私はこの広島派遣団に参加し、改めてそう感じ、この事実を一人でも多くの人に知ってもらいたいと思いました。戦争の事実を知ることが世界が平和になる第一歩につながると思うからです。

一日でも早く、戦争や核兵器がなくなり、みんなが安心してくらせる平和な世界になりますように。

戦争の恐ろしさを知って



南城陽中学校 1年

平岡 紬

私は学校に貼ってあるポスターを見て、この現実でおこった恐ろしいことをしっかり勉強しなければいけない、受け止めなければいけない。と思ってこの広島派遣団に応募しました。

そして当日、私はドキドキしていました。今の広島はどのような町なのか。広島に住んでいる人の気持ちはどうなのか。など、いろいろな気持ちは入り混じっていました。そしてその気持ちのまま、広島に到着しました。バスから降りてすぐ、原爆ドームが見えました。建物が崩れ、今にも壊れそうになっていました。本当にこの広島に原爆が落ちたんだなあと思ひ、心に釘が刺さったような気持ちになりました。初めに、平和資料館を見学しました。資料館には、ボロボロになった服、焦げたお弁当箱、三輪車。8時15分で止まっている時計など、その当時の物がたくさん展示されていました。見学している途中、折り鶴をもらいました。その鶴には、「千の風にのって愛する世界に。」と刻まれていました。きつとこの世界に二度と不幸なことがおこらないように…。と願いを込めているんだと思います。そして私が一番記憶に残っているのは、原爆を投下された人々の人形です。その人形は、皮膚がとけてぶら下がっていて、髪の毛は逆立っていて、服はボロボロ

…。この人形よりも現実はずっと恐ろしいものだと思ひました。

次に被爆された方の話を聞きました。当時は、健康な男性は出征して兵隊になっていたといいます。8月6日、岡田さんの弟2人は日本の飛行機だと思つて手を振っていたその瞬間「ピカー」と光り、10秒もしない間に大火災がおきたらしいです。私はその話を聞いている時、本当にこの広島でおこったこととは思えませんでした。けれどこの広島でおこったことなので、しっかりこの現実を受け止めなければいけない。と心に強く刻み込みました。

次の日、広島平和記念公園を歩きました。原爆死没者慰霊碑にみんなで白い花をささげました。そして「安心して眠つて下さい。この世界を私達が幸せにしますから。」と手を合わせました。その次に原爆の子の像の所に行きました。そして折り鶴をささげました。

私はこの広島派遣団に参加して、原爆の恐ろしさ、命の尊さを学ぶことができました。私達が普通に生活していることはすばらしいことだと思ひました。そして被爆された方の思いを胸に、一日一日を大切に生きて行きたいです。そしてこの世界から『戦争』という言葉がなくなり、皆が幸せに生きて行けますように…。

